

9月6日から10日までの4泊5日間で、島根県隠岐郡島前地域に行ってきた。私は高校生活の3年間で、今回訪問した隠岐島前高校で過ごしていたので、半年ぶりに第2の故郷に帰ったような感覚だった。滞在期間中は、有限会社まつのやさんで温かいお母さんとお父さんにお世話になった。また、おばさん達のお知り合いの人々にも様々な場面でお世話になった。

7日は、隠岐島前高校ヒトツナギ部「ヒトツナギ×島前交流会」に参加した。ヒトツナギ部は、「ヒトツナギ」という旅の企画・運営をしている部活であり、「ヒトツナギ」は、島前地域に伝わる伝統文化や温かい島の人々との出会いや交流を通して、人との出会いや人との交流の大切さを伝えていくという旅だ。参加者は、島前地域内外の中高生。今年は5回目の旅を8月に終えたばかりだった。先生方からのお話では、今年の旅を終えて、生徒それぞれの思いはとても強いが、部活全体としての方向性の定まりがないことや、生徒の感謝の思いが島の人々に伝わりにくいなどが現在の部活動の問題点として挙がっていた。

今回の「ヒトツナギ×島前交流会」では、島の人々を交流会に招いた。高校生は、ヒトツナギの第1回観光甲子園グランプリ受賞プレゼンテーションを練習し、発表した。その後、島の人々と意見交換を行い、今後ヒトツナギを運営する上でのヒントをいただいたりしていた。

7日当日、ほぼ1日を通して、ヒトツナギ部員の高校生とともに過ごした。その中で、私は高校生ひとりひとりの、ヒトツナギに対しての強い想いを感じた。プレゼンテーションの発表の最後に、「僕たち・私たちの想い」を話してくれた。部員一人ひとりが「自分はこんな想いでヒトツナギに関わってるんだ！」という熱い想いを持っていることが伝わってきた。また、高校生がたった1週間で自分たちなりの工夫を入れつつ、観光甲子園のプレゼンテーションを作り上げたということからも、高校生の想いが伝わって来た。直前に指摘されたことも改善されていて、きっと何度も練習したんだろうと思った。プレゼンテーションは個人で作るものではないので、部員全員で一致団結したことも感じられた。

ヒトツナギの素晴らしいと思った点もあった。それは、島の人々がヒトツナギに対して、とても協力的だということだ。「もっと私たちに頼っていいよ」と島の人々がおっしゃっているのを何度か耳にした。高校生がやっていることに対して、地域の人々が本気で向き合い、協力してくださっている姿を目の当たりにした。高校生には、島の人々からの協力をしていただきながら、「これは、普通のことじゃない」ということを忘れずに、ありがとうの気持ちを大切にしていってほしい。

当日の改善点としては、高校生自身の当日の役割に偏りがあったように感じた。たとえば、島の方へのお茶出しをする人は、決まった人がしていたり、積極的に島の人のところへ行かず、後ろに固まってしまっていたりということが何度か見られた。このような機会はなかなか得られないと思うので、1回1回の企画を大切に、島の人々との交流をしたらよいのではないかと思った。

また、これからに向けての改善点としては、先生もおっしゃっていたが、部活全体としての方向性を一致させてほしいと思う。今回の交流会で、高校生一人ひとりの「こんなヒトツナギにしたい」という思いは、聞くことができた。しかし、ヒトツナギはチームプレーだと思うので、部活全体としての目標を決めることや、想いを共有することをしてほしい。互いの考えを認め合い、ぶつかり合いながら支え合っていてほしいと思う。

8日は、島前地域の3つの中学校のうちの1つ、西ノ島町立西ノ島中学校で出前授業をさせていただいた。中学生からのインタビューを受ける、という立場での参加だった。

中学生が大学生にインタビューした内容を全体で発表してくれたから、合宿メンバーのことも知る機会になった。同じ学部生だったので、しっかり話したりしておらず、正直みんなのプロフィールをしっかりと把握してなかった。また、中学校の先生が中学生に対して熱心だと感じた。中学生の間から、自分の進路についてしっかり考える機会があるのはうらやましいと思った。また、今回のように大学生と話すことは、「自分が大学進学を目指すのか、どうか」という点を考えるには良い機会になったのではと思う。

また、企画での課題としては、自分から話を振っていいのかわからず、沈黙が続いてしまった。私自身としては、中学生が質問を考えてきていると聞いていたこと、中学生からの質問に答えるということ、を重視していた。なので、中学生からなかなか質問もされず、自分から「自己紹介」をしていいのかわからず悩んでしまった。授業終了後に聞くと、大学生から「自己紹介」した、というところもあったそうなのでそうしたらよかったかなと思った。また、中学生ペアが積極的な子同士だったり、シャイな子同士だったりと偏りがあったように思ったので、そこは改善しなおした方がいいと思う。私自身の課題として、初対面の中学生や高校生と「何から話せばいいのか」という点でとても悩むところがあることを再確認できたので、自分なりに考えていきたいと思う。

9日は、隠岐島前高校の夢ゼミで授業に参加させていただいた。夢ゼミでは、高校生と一緒に、「want (自分がしたいこと)」「can (自分ができること)」「need (求められていること・人のためになること)」の3つの観点の共通部分を考えるということをした。私たちの他に、立命館大学(9名)、京都産業大学(1名)、慶應義塾大学(1名)の学生のみなさんが参加していた。授業の最後には、高校生の悩み相談の時間があつた。

良かったところとしては、私が卒業生だったこともあると思うが、高校生が積極的に話しかけてくれた。授業の中では、前日の中学校の出前授業の反省点を生かすことができた、具体的には、できるだけ共通の話題を出すようにした。そちらの方が、私としても話しやすかったと思う。また、隠岐國学習センター側がメインで授業をやってくださったおかげで、自分としても学ぶことがあつた。今回授業でやったことは、今後、自分が活動していく中でも重要になる内容だった。特に「やりたいこと」「できること」を考えるのは簡単だけれども、「求められていること」を考えていくのはとても難しいように思った。これからの自分の行動の中で、しっかり考えていきたいと思う。そして、7日に会ったヒトツナギ部の子と話せたのが良かった。7日にいろいろと吸収したヒトツナギ部のメンバーの子が、

今考え得ていることを話してくれた。たった 2 日しかたってなかったけれど、いろいろと考えることがあったということが分かったので、企画自体に意味があったのかなと思った。改善点としては、高校生のことも考えつつ、自分のことをやるのはきつかった。近い立場ではあったが、やはりいろいろアドバイスはしないといけなかったので、自分のことと両立するには時間が足りなかった。また、悩み相談では自分の話す量が多かったと思う。高校生へのアドバイスの分量が分からず、話しすぎてしまったように思う。聞き役に徹せていなかったように思うので、気をつけるべきだった。

私は中学校 3 年生・高校 1 年生の中に、ずっと先の未来について考えている子がいることが良いと思った。なぜなら、彼らが周りの同級生の刺激にもなるからだ。中学生から「大学に行った方が良いんですか？」と聞かれたこともあった。また、高校 1 年生の中には、「医者になりたい」「生まれ故郷を元気にしたい」など自分の未来を考えている子が何人もいた。よく、「私は学力が足りないから、大学にはいかない」という人がいる。けれど島前に住んでいる子は、「自分はこうなりたい、だから大学に行く」などと自分のやりたいことの前段階としての大学を考えていたように思う。彼らのように、大学を自分の夢のためのワンステップとして考えられるような中学生・高校生がもっともっと増えてほしい。

合宿全体の良かった点としては、全体的に時間のゆとりがあったこと。スケジュール自体がハードではなかったもので、ゆったりと島の時間を感じる余裕もあった。また、西ノ島町・海士町の観光もした。勉強ばかりでなく、海士や西ノ島の文化・自然を直に感じることもできたので、良かったと思う。しかし、できれば知夫村にも行きたかった。3 島それぞれの雰囲気の違いを体感したかった。次回島前に行ったときには、ぜひ、3 島すべてを周りたいと思う。

私は今回の合宿の中で、一番うれしかったことがある。それは、高校時代にお世話になった島の人が私のことを覚えていてくださったことだ。私は、島前の出身ではない。それでも島の人が覚えていてくださって、「おかえり」と声をかけてくださる。このような環境は、島前の人との間だからこそ生まれるものなのかもしれないと思った。

4 泊 5 日間を島前で過ごすにあたり、島の人に助けていただいた。それにもかかわらず、最後、船に乗るがギリギリになってしまい、見送りに来てくださった方へのお礼もきちんと出来なかった。そればかりか、最後の最後まで助けていただいた。

心温かい島の人たちに囲まれて、送る高校生活は、東京の高校では絶対体験できないことだと私は思う。この経験を私自身、卒業生として大切にしていきたい。また、高校生には、1 日 1 日を大切に高校生活を送ってほしいと思う。そして普段の生活の中では、勉強だけではなく、島に出ることもしてほしい。これは、今回合宿に参加したからこそ思ったことだと思う。島前合宿は、卒業生である私にとっては島に帰る 1 つのキッカケになった。このような機会は、これからも大切にしていきたいと思う。

この合宿で学んだことや発見した自分の課題を、秋学期に 1 つ 1 つ考えながら、生活していきたいと思う。